



アムステルダム国立美術館で興味津々
写真提供：佐伯泰英事務所

佐伯通信

2023年10月(令和5)
第65号
発行
佐伯泰英事務所
担当/光文社
禁・無断転載

食わず嫌いと プレゼント

久しぶりに海外に旅した。私にとって馴染みのないオランダだ。最後の旅がコロナ禍以前のシシリア旅行だから四年ぶりだ。オランダでの最初の訪問地はエダムという愛らしい町だった。

なぜこのたびオランダを訪ねたかという、アムステルダムで催されていた大規模な「フェルメール展」を鑑賞するためだ。だがこの展覧会はすでに予約で満杯。いったんは諦めた。ところが日本のあるツアー会社が入場の権利を保有していると娘が調べてきた。ただし「フェルメール展」を観るためにはツアー旅行に参加せねばならないという。私も娘も勝手気ままの個人旅行を好んでおり、ツアー旅

佐伯泰英／近刊のお知らせ

2024年 1月

11日

4日

《文春文庫》

新・酔いどれ小籐次

26

『恋か隠居か』

『小籐次が帰ってきた!』

「佐伯通信」第66号が入ります。(初版の初回出荷分にのみ挟み込み)

《光文社文庫》

『一口慕情』(仮)

《短期集中新シリーズ1》

時代小説
301冊目

時代小説
300冊目

この巻から始まる短期集中シリーズとして連続刊行の予定です。詳細は「佐伯通信」66号などでお知らせいたします。

※発売日は予定です。

▼ 文春



PCやスマホでも /

佐伯作品が電子書籍で
読めます!

▼ 光文社



出版社からのお知らせ 光文社文庫・文春文庫

佐伯泰英 「時代小説300冊」達成!



いよいよ2024年1月、佐伯泰英先生の書下ろし時代小説の刊行点数が300冊に達します! 文春文庫の『新・酔いどれ小籐次26 恋か隠居か』が300冊目、続く光文社文庫の『一口慕情』(仮)が301冊目となります。それを記念しまして下記の企画を実施いたします。

★佐伯先生から全読者の皆様へ300冊記念特製しおりをプレゼント

佐伯先生が読者の皆様への感謝の想いをこめて作成した特製しおりを、1月刊行の2冊(初回出荷分)に全読者プレゼントとして封入いたします。

その他、書店、電子書店にて記念フェア開催なども予定しています。2024年1月をお楽しみに!

『新・酔いどれ小籐次26
恋か隠居か』 300冊目

300冊記念の特別新作として、小籐次が帰ってきてくれました! お蔭まいりが大流行する中で小籐次と息子・駿太郎、鼠小僧も活躍。ご期待下さい。

『一口慕情』(仮) 301冊目
《短期集中新シリーズ開幕》

美濃国から江戸にやってきた小此木善次郎一家が落ち着いた一口坂の長屋。凄腕の侍が、長屋の謎と降りかかる災難を一刀両断!

近刊・作品情報はこちらでもチェックできます。
<https://www.saeki-bunko.jp> 佐伯泰英 ウェブサイト 検索

2023年の「佐伯通信」は、佐伯泰英事務所が(株)文藝春秋、(株)光文社の協力のもと発行します。

行の記憶がない。ともかく選択肢がない以上、旅行会社のツアーに参加せざるを得ない。まずツアー旅行の感想から申し上げます。はい、オランダへの旅、実に快適でした。当ツアーのユーモアあふれるリピーター諸氏は知性があり、余裕のある方々でした。さて最初の訪問地エダムは牧歌的な町で、エダム・チーズが名産とか。私、チーズが大好きというわけでは

ない。だが、愛らしいチーズの数々と木靴が展示された店に惹かれて、老婦人に差し出されたチーズを食して、いきなり小さな木靴のついたエダム・チーズを買いました。娘からは旅の初日なのに重たくて高張るチーズを言うなんて、私に持たせないでよ」と注文がついた。ひょっとしたら私のチーズ嫌いは、「食わず嫌い」だったのかもしれない。はい、私、オランダ料理もフェルメールもチー

ズまで好きになりました。さて来年正月刊の文春文庫新作『恋か隠居か』で時代小説三百冊目、さらに同月の光文社刊行の、『一口慕情』(仮題)で三百一冊目、新たな出発ということ。この記念作二冊の全読者に筆者佐伯泰英から細やかなプレゼントを考えております。ぜひお楽しみに。